nmg 臨床を変えるシリーズ

# リンガライズドオクルージョンを総義歯からパーシャルデンチャーまで臨床でどう効果的に構成するか

8020運動の浸透により，欠損補綴治療の需要は当初急速に減少すると予想されていたが，高齢社会を迎えて世界一の長寿国となった我が国の実情は，有床義歯症例が今後20年間で1.5倍に，25年間で1.8倍に増加すると将来推計がなされています．また，近年，有床義歯患者の審美性と機能性に対する要求度は高まる一方であり，私達歯科医療従事者は今後その的確な対応に迫られることが必至であることを認識しておかなければなりません．

義歯治療における臨床サイドと技工サイドのチームコミュニケーションは，治療目標である残存組織保全と機能回復率向上の両立を最大限に達成するために，チェアサイドの歯科医師が担当する診査・診断・設計・印象・咬合採得・装着までの要点と，ラボサイドにより間接法で行われる技工操作の要点を，両サイドが十分認識することで，その治療目標に向かって円滑な連携と協力体制が図られます．患者さんの要求度も高まるなかで，義歯治療の術式も多様化し，技工サイドにおける技術進歩もめざましいものがあります．とくに、リジットサポートのためのパーシャルパラレルミリングやコーヌスクローネによる技工操作は作業工程が複雑で，しかも，顎機能と調和した咬合構成や残存組織の支持能力と歯周組織を考慮した歯冠形態における審美性も要求されます．

そこで今回の講演では，リンガライズドオクルージョンの欠損様式や欠損部顎堤など諸組織の残存状態に応じた総義歯からパーシャルデンチャーまでの効果的な臨床応用基準と，チェアサイドから多くの情報が必要となる義歯治療における技工工程の現状を改めて整理し，技工作業に不可欠なチェアサイドからの情報と，複雑になる技工操作と各作業ステップを的確で迅速に行うためのポイントをお話をさせていただきます．

## ■ 講師　星　久雄　先生

1951年　新潟県出身
1974年　日本大学歯学部付属歯科技工士学校卒業
1974年　八重洲歯科医院勤務
1978年　イマイデンタルスタジオ勤務
1986年　新潟市にて星デンタルラボラトリー設立(現在に至る)
1989年　トロント大学にてブローネマルク・インプラント歯科技工研修を履修
1997年　日本歯科大学新潟歯学部歯科技工研修科非常勤講師(現在に至る)
1997年～2004年　新潟大学歯学部付属歯科技工士学校非常勤講師

■ 日　時　2005年12月18日(日)09:30～16:30
■ 定　員　100名
■ 費　用　10,000円(歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士)
■ 振込先　肥後銀行田中町支店(259)普通151403
NMGセミナー事務局　事務長　粟津貴昭
■ お申込み　またはお申し込みの歯科商店様へお支払い下さい
事務局へFAXまたはe-mailでお申込み下さい
その後10,000円をご入金時点でお申込み完了とします

■ 会　場　グランメッセ熊本　大会議室
熊本県上益城郡益城町福富1010
096-286-8000/Fax 096-286-1100

## ■お薦めします

今回、NMGでは日本で非常に高名な歯科技工士の星久雄先生をお呼びして、リンガライズドオクルージョンの臨床についての講演をしていただくことになりました。リンガライズドオクルージョンは様々な修復治療に非常に有効な咬合構成として認められておりますが、それを　実際の臨床応用することについてはその基準がなかなか明確ではありません。

星先生はご存知のように日本歯科大学新潟校の小出馨教授の片腕として長年、臨床、研究、教育に携わってこられました。その豊富な知識と臨床経験は彼の専門分野である部分床義歯、パーシャルパラレルミリング、総義歯の製作のみならず歯科医師とのコミュニケーション、顎機能にまで及んでいます。

リンガライズドオクルージョンとは何か、その臨床的基準とは何か、臨床応用はどうするのか、歯科医師との連携はどうするのかなどの臨床的疑問についてお話をお聞きするのに最適の人であると思います。星先生のご講演を強く推薦いたします。

nmg顧問　西川義昌

## お問合せ先


**有限会社アワデント**
**NMG事務局**
熊本市新外4丁目6-65
096-331-0567　FAX 331-0577
代表取締役　粟津貴昭
taka@ourdent.com
http://www.ourdent.com


## お申し込み　FAX　096-331-0577

お名前　　勤務先

連絡先
住所
電話
FAX
e-mail

ご紹介先：